

## 向山寛夫先生と台湾史研究（四訂稿）

—日本統治下台湾史研究の一齣—

令和4（2022）年7月15日（金）現在

（補正経緯）

HP 初出: 平成22（2010）年12月14日（火）初稿作成

平成26（2014）年7月24日（木）改訂稿作成

平成26（2014）年8月31日（日）再訂稿作成

令和4（2022）年4月1日（金）三訂稿作成

（『CD版 宮崎道三郎博士・小林宏先生・西村稔先生・高橋由利子先生略年譜・著作目録【参考篇】【附篇】—ローマ法・法制史学者著作目録選（第十五輯）—』（令和4（2022）年4月1日刊）に収録した。）

・令和4（2022）年7月15日（金）四訂稿作成  
（一部補正した。）

國學院大學法学部元教授・法学博士向山寛夫先生（むこうやま ひろお、1914～2005）には、平成17（2005）年1月12日（水）、病のため逝去された<sup>1</sup>。

先生は、もとより御専門の労働法学者、中国法学者として極めて著名であったが、他方、戦後における日本統治下台湾史研究の先駆者とも言うべき方で、この方面でも令名高かった。御高名は夙に存じ上げていたが、初めてお目にかかれたのは、遅れて昭和55（1980）年夏先生が燕都で御活躍の時であった。爾来、折に触れ御懇篤な御指導を賜ることができたことには、ただただ感謝するばかりである。

先生の御著作は、例えば、単行書だけでも、下記に掲げるように多数にのぼるが、中でも『日本統治下における台湾民族運動史』（中央経済研究所、昭和62年7月刊）<sup>2</sup>は、早く昭和36（1961）年に九州大学に出された学位請求論文を公刊されたもので、我が国戦後の台湾史研究を総括する大著である。これについては、丸山眞男教授（1914～1996）の有名な書評がある（『みすず』第324号（昭和63年1月）69頁「1987（昭和62）年読書アンケート」、『丸山眞男集』第16巻（雑纂、岩波書店、平成8年12月6日刊）278、279

<sup>1</sup> 訃報として『國學院大學学報』第522号（平成17年2月10日刊）第4面、『台湾協会報』第605号（平成17年2月15日刊）第2面、追悼記として横山謙一（國學院大學法学部教授、1949～）「驚くべき行動力 鋭い舌鋒 心優しく 向山寛夫先生を悼む」『國學院大學学報』第524号（平成17年4月10日刊）第2面、小田滋（1924～）「台湾を愛した恩師・先輩の訃（前）2 向山寛夫」『台湾協会報』第609号（平成17年6月15日刊）第2面、石井明（1945～）「向山寛夫先生の訃報に接して」『アジア研究』第51巻第3号（平成17年7月刊）〈<http://www.jaas.or.jp/pdf/51-3/p116.pdf>〉等各参照。

黄昭堂（1932～2011）書評：『アジア研究』第35巻第10号（アジア政経学会、昭和63年10月刊）121～129頁参照。（平成26年7月24日追加）

〈<http://www.shachi.co.jp/jaas/35-01/35-01-05.pdf#search=%E5%90%91%E5%B1%B1%E5%AF%9B%E5%A4%AB>〉

<sup>2</sup> 黄昭堂（1932～2011）書評：『アジア研究』第35巻第10号（アジア政経学会、昭和63年10月刊）121～129頁参照。（平成26年7月24日追加）

〈<http://www.shachi.co.jp/jaas/35-01/35-01-05.pdf#search=%E5%90%91%E5%B1%B1%E5%AF%9B%E5%A4%AB>〉

頁に再録。)。なお、同書は、(財)交流協会の助成を得て、平成 11 (1999) 年 12 月に、台北で中国語訳(楊鴻儒、陳蒼杰、沈永嘉訳『日本統治下の台湾民族運動史』(福祿壽興業股份有限公司刊))が刊行され、大きな反響があったと聞いている。また、先生は東京大学教養学部で戦後初めて台湾史を講じられたことでも有名である。

先生の御生涯については、先生御自身に『向山寛夫自叙伝』、『向山寛夫エッセイ集』その他があり、それらに詳しいので、ここでは割愛するが、周知のように極めて波乱に富まれた一生を送られた。先生の御長逝で、日本統治下台湾史研究も一つの時代が終わった感がある。後進の者は、須く先生の御偉業を越えて、努力していく必要があると思う<sup>3</sup>。

[参考]

## 1 向山寛夫先生略歴 (ネット資料等による。)

大正 3 (1914) 年 栃木県生まれ、台北一中、栃木中学、新潟高校を経て、昭和 15 (1940) 年 3 月東京帝国大学法学部政治学科卒業 同年華興商業銀行勤務、昭和 19 年中支那派遣軍陸軍臨時嘱託を経て帰国 戦後、昭和 21 年政治経済研究所員、同 27 年愛知大学法経学部助教授を経て、同 39 年國學院大學法学部教授、同 60 (1985) 年定年により退職 法学博士 (九州大学)、弁護士 長く『台湾協会報』学芸欄「台湾歌壇一首抄」の選者であった土屋セツ子氏 (元台北第三高女教諭、1906~2006) は、御令姉に当たられる。呉戀雲「土屋セツ子先生を懐かしんで (前・後)」『台湾協会報』第 614、615 号 (平成 17 年 11、12 月 15 日刊) 参照。

## 2 向山寛夫先生主要著作目録

(「国会図書館所蔵目録」から雑誌抜刷を除いたもの。全体の御著作目録は、先生の御著書等に掲載されているので、それを参照のこと。その他、nacsis webcat⇒CiNii 参照。)

- ・中国共産党の労働立法 (昭和 39 (1964) 年)
- ・中国労働運動の歴史的考察 (昭和 40 (1965) 年)
- ・最近における日本共産党の労働組合政策 (昭和 41 (1966) 年)
- ・中国労働法の研究 (昭和 43 (1968) 年、中央経済研究所)
- ・中華人民共和国の刑事法 (昭和 46 (1971) 年、中央経済研究所)
- ・栃木日記 / 中山日東男著・向山寛夫編 (昭和 46 (1971) 年)
- ・労働法講説 (昭和 48 (1973) 年、中央経済研究所)
- ・労働法講説 / 改訂版 (昭和 55 (1980) 年、中央経済研究所)
- ・新中国の憲法 (昭和 59 (1984) 年、中央経済研究所)
- ・東京学生消費組合史 (昭和 59 (1984) 年、中央経済研究所)
- ・労働法講説 / 訂正版 (昭和 62 (1987) 年 6 月、中央経済研究所)
- ・日本統治下における台湾民族運動史 (昭和 62 (1987) 年 7 月 31 日、中央経済研究所)

<sup>3</sup> 本稿は、平成 18 (2006) 年 1 月 1 日作成の旧稿を修正したものである。向山先生の台湾史研究関係の御著作目録については、いずれ何らかの形で作成したいと考えている。

(本書については、1999(平成11)年12月に台湾で楊鴻儒(1930～)、陳蒼杰、沈永嘉による中訳本『日本統治下の台湾民族運動史』(福祿寿興業股份有限公司)が刊行されている。)

- ・堀見末子土木技師 / 堀見末子著 堀見愛子(平成2(1990)年)
- ・昭和五年台湾蕃地霧社事件史 台湾軍司令部編 復刻版(平成2(1990)年、中央経済研究所)
- ・台湾台北州立台北第一中学校の沿革(年表) / 向山寛夫編。(台湾台北州立台北第一中学校同窓会・麗正会、平成3(1991)年7月)
- ・台湾台北州立台北第一中学校の沿革(年表) / 向山寛夫編。(八光印刷、平成3(1991)年)
- ・向山寛夫自伝(平成3(1991)年、中央経済研究所)
- ・我が向山家 甲斐の向山出雲守昌保盛吉も後裔(平成3(1991)年、中央経済研究所)
- ・向山寛夫エッセイ集(平成5(1993)年3月31日、中央経済研究所)
- ・粵漢戦地彷徨日記(平成6(1994)年6月、中央経済研究所)
- ・文革後の中国一年日記(平成7(1995)年、中央経済研究所)
- ・新潟高等学校(旧制)の学生騒動記録 / 向山寛夫編著(平成8(1996)年5月、中央経済研究所)
- ・日本の台湾むかし話(平成10(1998)年、中央経済研究所)
- ・台湾高砂族の抗日蜂起(平成11(1999)年3月、中央経済研究所)
- ・私の文筆歴と売れなかった小説(平成12(2000)年10月、中央経済研究所)
- ・我がイデオロギーの変遷 米寿を迎えて(平成13(2001)年8月、中央経済研究所)

### 3 向山寛夫先生関係文献(平成26年7月24日新設追加)

- ・前掲(註1)参照
- ・猪口孝(1944～)「台湾研究の一つの源流—向山寛夫先生のことなど—」『台湾協会報』第717号(平成26年6月15日刊)第2面(平成26年7月24日追加)
- ・呉戀雲「土屋セツ子先生の思い出」『台湾研究資料』66号(東京台湾の会、平成26年8月5日刊)19～22頁(土屋セツ子:1906～2006、向山先生令姉、元台北第三高女教諭、歌人。呉戀雲:87歳、台北第三高女21期卒業生、「台北歌壇」会員、呉前掲『台湾協会報』第614、615号参照。(平成26年8月31日追加)

(了)